

海外の浄土真宗事情

第11回 浄土真宗センター（北米開教区）

浄土真宗本願寺派の北米開教はおよそ百二十年の歴史を持つ。その中でも特記されなくてはならないのは、開教に従事する僧侶の育成のための教育機関の設立とその歩みである。

第二次世界大戦前は、北米教団が京都に留学生のための寮を設け、日本での教育を中心に人材育成に努めていた。しかし、戦時中敵性外国人強制収容所の中で、アメリカ生まれのメンバーによる宗教団体「米国仏教団」が新しく組織され、将来の方向が示された。それは、英語による、アメリカに根ざした教団をつくるということである。

もちろん、日本から派遣される開教使は戦後も途絶えることがなかったが、アメリカ生まれの二世の数が増えるにしたが

い、英語による仏教の布教がかかせないものとなったのは自然の流れであった。そのために、戦後の教団の事業の一つ



テクノブッダ（仏青の集い）

情報コーナー

が教育機関の設立であった。現在の米国
仏教大学院がそれである。その原点は一
九四九（昭和二十四）年のバークレー仏
教会に併設された仏教研究所である。一
九六六（昭和四十二）年には仏教会の近
くに新しく建物を購入し、正式に大学院
として出発した。

その後、仏教大学院は神学大学院連合
との提携にともない、一九八九（平成
元）年に再度新しい学舎を購入し移転し
た。ところが、その一年後に地震が発生
し、建物の構造の問題が生じたがその修
復にかかる費用が工面できず、余儀なく
サンノゼの北、スタンフォード大学の近
くの仏教会の建物を借用することにな
り、そこに事務所を移したのが一九九七
（平成九）年のことである。

その頃日本では阪神淡路大震災が発生
し、多くの犠牲者を出した。当時、総務
であった豊原大成氏はご自坊が被災され
ご自身の辛い悲しい思いを心の奥底に秘
めながら、当地の地震の被害状況を心配
され、総長在職時の一九九九（平成十

二）年五月にメキシコ訪問途上バークレ
ーに立ち寄られた。その際目にされたバ
ークレー仏教会隣接の古い建物が現在の
浄土真宗センターの前身である。この建
物は、人材育成センターとして宗派及び
龍谷大学との共同事業にて設立が進めら



開教使アシスタント冬期研修会

れていく。

その後紆余曲折があったが、二〇〇
三（平成十五）年に遂に購入する運びと
なった。宗派でも国際伝道推進対策委員
会が結成され、米国仏教団と何度も会議
を重ね、最終的に宗派、龍谷大学、そし
て米国仏教団の事業として、仏教大学院
の新しいキャンパス、教団の教育センタ
ー、宗派の人材育成所、龍谷大学のバ
ークレーの拠点となる「浄土真宗センタ
ー」の設立が決定された。その工事竣工
は二〇〇五（平成十七）年である。その
翌年十月、当時の新門様ご夫妻をお招き
して開所式が盛大に執り行われた。

現在では、仏教大学院は国外での真宗
教学研究の中心となるべく、その陣容を
整えつつある。また、広く一般社会で活
躍できる病院などの臨床宗教師の育成に
も力をいれている。また宗派の事業とし
ては世界中の人々を対象として行われて
いる浄土真宗英語通信教育、開教使を目
指す日本人を対象とした研修プログラ
ム、見聞を広め国際的な感覚を養うこと



龍谷大学BIE（語学・文化留学プログラム）——プレゼン

海外の浄土真宗事情

を目的とした宗務員海外研修等が行われている。龍谷大学は、年間を通して学生の短期留学を行って好評を博している。米国仏教団は、開教使の生涯教育、開教使アシスタントの研修、得度習礼や教師教修の準備のための講習などに重点をおいているが、同時に仏教会を精力的にサポートしてくださる門信徒リーダーの育成、若人をターゲットとしたプログラム

等も展開し、教団の活性化に寄与している。

このセンターには、本堂の役割を持った講堂、三十名宿泊可能な設備、図書室、会議室、教授用の研究室、応接間、教室、長期滞在アパート、キッチン、食堂、仏教書店、駐車場などが設けられ、各地の仏教会のセミナーなどにも活用されている。昨二〇一六（平成二十八）年十月には創立十周年を記念した行事が行われた。

昔も今も宗門や教団にとっての最重要課題は人材育成である。日本でお念仏の喜びを日本語で語りあうことは大事であるが、その声を今まで以上に世界に響かせたいという願いを持って建てられたのが浄土真宗センターである。しかしながら、主役は建物ではない。各種のプログラムを行う目的は人材育成であり、実際にその成果が徐々に現れていることはありがたいことである。



国際伝道者養成プログラム（IMOP）——キリスト教教会での講義

特に、前述の宗派運営の英語通信教育は好評で、アジア各国、アフリカ、中近東からの受講者もいる。もちろんヨーロッパにも受講生がいるということで、昨年は夏のスクーリングをドイツで行った。数は多くはないが、そこに集まった人たちの喜びを語りあう姿を目のあたり



英語通信教育8月スクーリング 於ドイツ恵光寺

にし、念仏のみ教えが世界の人々の光と
なれることをより一層確信することがで
きた。

混迷する世の中であるからこそ、親鸞
聖人の教えを求めている人は多い。フィ
リピンやタイなどからも問い合わせがあ
ることを考えると、今から百二十年前

に、アメリカから本願寺に僧侶派遣の嘆
願書を送った先達せんたうのことを思いおこさざ
るをえない。そして、今こそ私たち本願
寺教団が先頭に立ち、海外の多くの人た
ちの願いにこたえていくことが求められて
いる。

これこそが、浄土真宗センター設立の
底を流れる思いであり、「世の中安穩あんのんな
れ、仏法ひろまれ」と願われた親鸞聖人
のお心に沿う道であることは間違いない
ことである。

(北米開教区開教総長 梅津広道)